

～ 未来の行仁小学校を創るワークショップ ～

みんなで考えよう！わくわくする行仁小学校！！

# ☆ 成果報告 ☆

- とき：第1回 平成27年10月24日（土）9：30～12：00  
第2回 平成27年11月 1日（日）9：30～12：00

- ところ：行仁小学校体育館

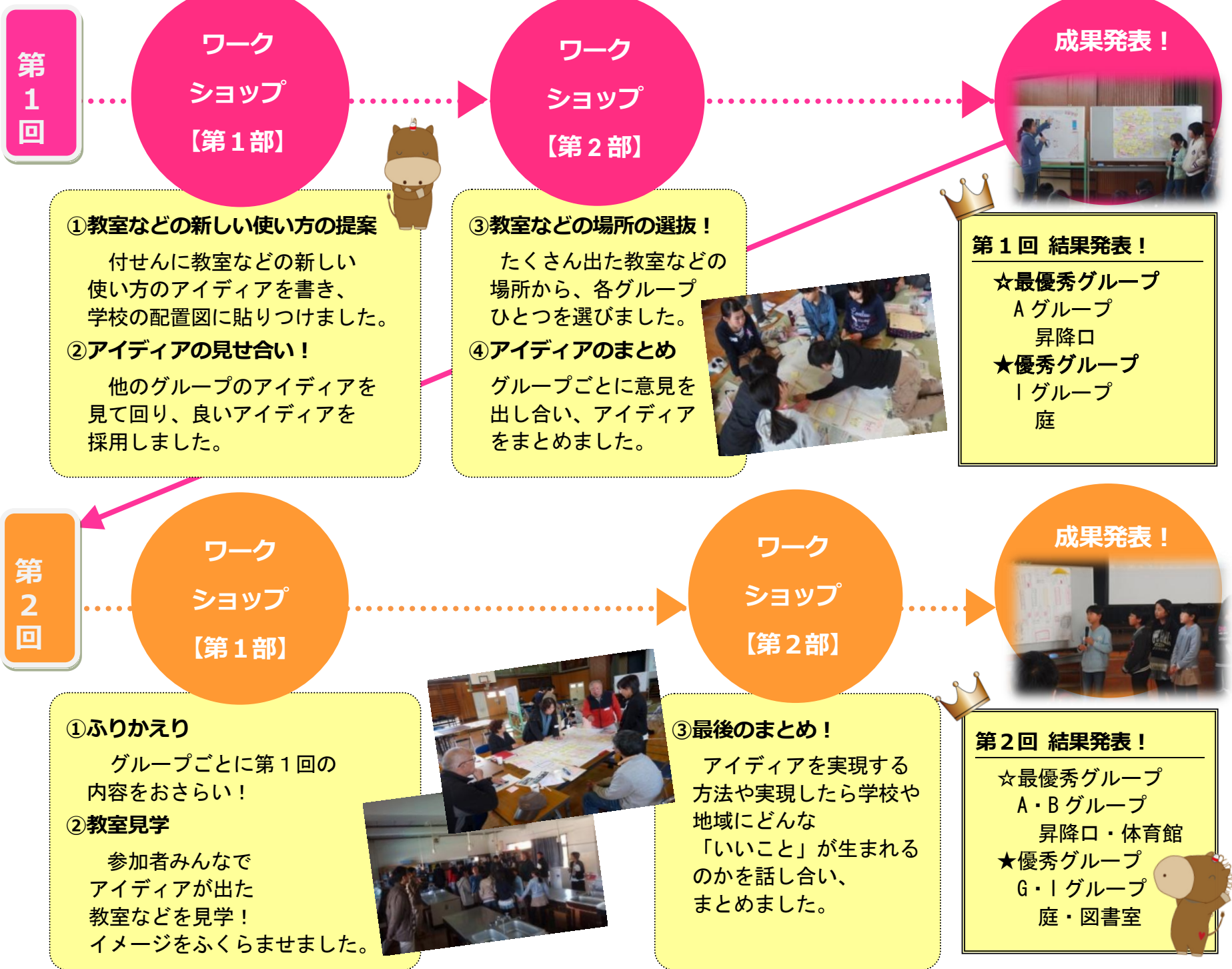
- 参加者：行仁小学校の児童、保護者、地域の方、先生、市の職員  
約60人



会津若松市  
ユニバーサルデザイン推進  
キャラクターゆにばくん

## ワークショップではこんなことにチャレンジしました！

「地区における公共施設のあり方」というテーマのもと、2日間にわたり、行仁小学校の教室や校庭、プールといった施設の新しい使い方を考え、参加者みんなで「小学校」という地区の公共施設の使い方や地域との関わり方について、これまでにないアイデアや考え方を発見しました！





# ワークショップの成果

面白いアイデアが  
たくさん出ました！  
みなさん、  
ありがとうございました！



全2回のワークショップの成果は次のとおりです

## Aグループ（児童① 5年生）



◎ 選んだ教室：昇降口

◎ 新しい使い方

- ・忘れ物屋をつくり、忘れ物をしても借りられるようにする。
- ・忘れ物屋には電話があり、親に持ってきてもらうこともできる。
- ・文房具やお菓子を売っているお店もあり文房具を買ったりお菓子で疲れをいやすことができる。
- ・お店は地域の人でも利用できるの地域活性化につながる！

## Bグループ（児童② 5年生）

◎ 選んだ教室：体育館

◎ 新しい使い方

- ・児童の絵を展示し、お年寄りやカップルなど誰でも観ることができる
- ・祝日はライブハウスとして使い、校長先生がきゃりーおみゅほみゅやお笑い芸人など芸能人を呼んでくれる。
- ・自由に汚せるスペースがあり、絵を描いたり作品を作ったりできる。
- ・地域の人でも体操をしたり、スポーツをしたりと自由に利用できる。

## Cグループ（児童③ 5年生）

◎ 理科室

◎ 新しい使い方

- ・壁が水槽になっており、イスもくるくる回るので水族館のように楽しめる。
- ・サメや電気ウナギ、ドクターフィッシュなどの水槽があり、ふれあいもできる。
- ・休日は大人もいっしょにエサやりや実験が楽しめる。
- ・理科の楽しさ、魚の楽しさを大人も子どももみんなで学ぶことができる！

## Dグループ（児童④ 6年生）

◎ 選んだ教室：地下室

◎ 新しい使い方

- ・避難所として使う。
- ・すべり台、登り棒、スロープといった様々な入り口から入れる。
- ・点字ブロックなどもあり、ユニバーサルデザインになっている。
- ・非常食、赤ちゃん用ベッド、ふとん、テレビやラジオなどがある。
- ・暖房付きの床でプラネタリウムが楽しめるので平常時も住民の交流の場として使える。

## Eグループ（大人①）

◎ 選んだ教室：プール

◎ 新しい使い方

- ・プールは民間のスイミングスクールを利用する。
- ・プールの水は火災の際に使用しても10分程度で尽きてしまうため、防災面でも不要と判断した。
- ・インストラクターに教えてもらうことで泳力が向上する。
- ・民間プールは通年使えるため、授業もやりやすくなる。
- ・プールの分の敷地を、有効活用する。

## Fグループ：（大人②）

◎ 選んだ教室：教室

◎ 新しい使い方

- ・自由な教室の使い方として検討した。
- ・イスや机が自由に動かせる、壁がホワイトボードになっている、など自由度を高くし、様々な使い方ができるようにする。
- ・授業で使わない時間を地域住民に有料で貸出し、地区の人と交流を促すことで地域が活性化していく。

## Gグループ（大人③）

◎ 選んだ教室：図書室

◎ 新しい使い方

- ・地域の情報センターとして位置付ける。(PC設置、郷土資料の展示など)
- ・窓向きに机を配置し集中して勉強できる環境を作る。
- ・ソファやこたつ、飲料販売など、様々な年代の方がくつろげる空間を作る。
- ・シアタールームがあり、地域の方とワールドカップ観戦などを行う

## Hグループ（市職員）

◎ 選んだ教室：給食室

◎ 新しい使い方

- ・フロアを広くし、休日は大人もレストランとして利用できるようにする。
- ・セキュリティ対策として休日専用の出入口をつくる。
- ・児童がレシピを考案する、大人と食事を楽しむなどを通じて食育を推進する。

## Iグループ（教職員）



◎ 選んだ教室：庭（校庭）

◎ 新しい使い方

- ・土を入換えたり、実のなる木を植える。
- ・夜も入れるよう、ライトアップする。
- ・ビオトープをつくり、絶滅危惧種を育成する。
- ・水や土を循環させ、たい肥などを地域の人といっしょにつくり、手入れをすることで児童と住民との交流や学びが生まれる。